



交通ひろしま

新春号
2024

HIROSHIMA TRAFFIC SAFETY

編集・発行 公益財団法人 広島県交通安全協会 広島県交通安全活動推進センター
〒731-5108 広島市佐伯区石内南三丁目1-1 広島県運転免許センター5F
TEL(082)941-7700 FAX(082)941-7701
URL <https://www.hiroankyo.or.jp/> e-mail: htss@hiroankyo.or.jp



あけまして おめでとうございます



年頭のごあいさつ

**「交通事故のない広島県の
実現を目指して」**

(公財)広島県交通安全協会
会長 小丸 成洋

新年おめでとうございます。

県民の皆様には、輝かしい新春をお迎えのことと謹んでお慶び申し上げます。

また、皆様には平素から交通安全協会の活動に対しまして、深いご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、去年の広島県の交通死亡事故は、高齢

者の死者数が全体の半数近くを占めるほか、二輪車による交通事故死者数が一昨年を上回るなど、依然として厳しい状況が続いております。

当協会といたしましては、このような状況を踏まえ、創意工夫を凝らした各種交通安全活動に取り組み、交通事故を抑止してまいる所存です。

引き続き、広島県や県警察をはじめ関係機関・各種団体、地域ボランティアの皆様と連携しながら「交通事故のない日本一安全で安心な広島県」の実現を目指してまいりますので、より一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

結びに、皆様のご多幸とご健勝を祈念申しあげ、新年のご挨拶とさせていただきます。



年頭のごあいさつ

**「交通事故のない日本一
安全で安心な広島県」の
実現を目指して**

広島県知事 湯崎 英彦

新年明けましておめでとうございます。

皆様には、令和6年の輝かしい新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

また、平素から本県の交通安全対策の推進に御理解と御協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

本県では、「第11次広島県交通安全計画」(令和3～7年度)に基づき、令和7年までに交通

事故死者数を年間60人以下(うち高齢者33人以下)、交通事故重傷者数を年間700人以下とする目標を掲げ、高齢者や子供などの交通弱者対策や、地域の交通実態に即した効果的な道路交通安全対策に取り組んでいるところです。

引き続き、貴協会をはじめとする関係機関・団体の皆様とともに、交通安全対策を積極的に推進し、「交通事故のない日本一安全で安心な広島県」の実現を目指して参ります。

新年の門出に当たり、貴協会の益々の御発展と、皆様の御健勝、御多幸を祈念して、年頭のごあいさつといたします。



年頭のごあいさつ

**交通事故のない
安全で快適な交通社会の
実現を目指して**

広島県警察本部長 森 元 良 幸

新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、平素から警察行政各般にわたり、格別の御理解と御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、県内の交通事故情勢は、自動車と比較して弱

い立場にある歩行者や自転車の安全確保が重視されるなか、依然として歩行者等が被害に遭う交通事故が多く発生するなど、厳しい状況にあります。

県警察としては、交通事故のない安全で快適な交通社会を実現するため交通事故抑止対策に全力を尽くしてまいります。交通安全活動のリーダーである皆様の各地域・職域における取組が重要でありますので、引き続き、御尽力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、貴協会の益々の御発展と本年が皆様にとって輝かしい一年となりますことを祈念申し上げます。新年の御挨拶とさせていただきます。

あけましておめでとうございます

各地区 交通安全協会会長

交通事故のない安全・安心な地域社会の実現を目指します。

本年も県民の皆様のご協力をお願いいたします。



広島中央交通安全協会
久保田 耕一



広島東交通安全協会
田中 秀和



広島西交通安全協会
橋川 徹



広島南交通安全協会
浮田 照義



安佐南交通安全協会
中富 祐二



安佐北交通安全協会
上田 秀信



佐伯交通安全協会
高田 稔



安芸地区交通安全協会
大成 景三



廿日市交通安全協会
野村 尊敬



大竹交通安全協会
村井 正雄



山県交通安全協会
砂原 正則



呉交通安全協会
三宅 清嗣



広島交通安全協会
土井 龍裕



宮戸倉橋交通安全協会
榎 勝則



江田島市交通安全協会
清水 義昭



東広島交通安全協会
新川 義貴



竹原地区交通安全協会
渡橋 博



大崎上島交通安全協会
信谷 裕



福山東交通安全協会
小丸 成洋



福山西交通安全協会
眞田 奈津基



福山北交通安全協会
佐藤 卓己



尾道交通安全協会
亀田 茂登



因島交通安全協会
伊藤 義美



三原交通安全協会
深山 隆一



府中交通安全協会
宮口 英昭



三次交通安全協会
藤定 守



庄原地区交通安全協会
佐々木 満



東城交通安全協会
桐岡 勲雄



安芸高田市交通安全協会
早川 眞典



世羅郡交通安全協会
井口 清紀

★「グッドライダーミーティング2023」の実施

11月12日(日)、広島県運転免許センターで開催しました。当日は寒い中、27名のライダーが参加し、白バイ隊員や指導員から安全確認の重要性、合図のタイミングなどの安全走行やコンビネーションスラローム、ブレーキングなどの技能走行に関することについて学びました。



白バイ隊員によるアドバイス

★「自転車安全教育指導員養成講習会」の実施

11月4日(土)呉ポートピア会場では14人、11月18日(土)広島県運転免許センター会場では17人の方が受講されました。自転車整備の重要性や自転車保険等の必要性についてなど講義を受け、また実際に自転車の危険な乗り方を体験するなど、安全運転の重要性を学びました。



傘差し運転の危険性を体験

★「地域交通安全活動推進委員連絡協議会連合会会議」及び「地域交通安全活動推進委員研修会」の開催

11月24日(金)、広島県運転免許センターにおいて開催されました。広島県警察による会議には、県内各地区推進委員25名が出席されました。研修会では、JAF広島支部による、「JAF交通安全講習会」が実施されました。



研修会の様子

★「年末交通事故防止県民総ぐるみ運動」の広報活動

「年末交通事故防止県民総ぐるみ運動」期間中の12月1日(金)に、広島県東部運転免許センターで出動式が行われ、12月6日(水)には、広島県運転免許センターで交通安全グッズを同梱した交通安全チラシを配布し、無事故・無違反を呼びかけました。



広島県東部運転免許センター

令和6年 広島県交通安全年間スローガン

『今日もまた あなたの無事故 待つ家族』

★第72回交通安全ポスター・作文コンクール特別賞のご紹介

ポスターの部			作文の部	
学校・学年・氏名		賞 名	学校・学年・氏名	
①福山市立多治米小学校 2年	小畑 桃々華さん	広島県知事賞	呉市立阿賀小学校 4年	切川 翔太さん
②広島市立瀬野小学校 6年	田中 夢芽さん	広島県警察本部長賞	福山市立竹尋小学校 6年	信近 瑠唯さん
③広島市立高陽中学校 3年	昆沙丸 魁俐さん	広島県警察本部長賞	東広島市立中央中学校 3年	柊 優菜さん
④広島市立緑井小学校 3年	灘 恵菜さん	広島県教育委員会賞	福山市立伊勢丘小学校 3年	秦 美織さん
⑤近畿大学附属広島中学校福山校 2年	宮寄 晴愛さん	広島県教育委員会賞	広島県立広島中学校 2年	高岡 夕愛さん

※特別賞の受賞作品は、当協会のホームページでご覧いただけます。



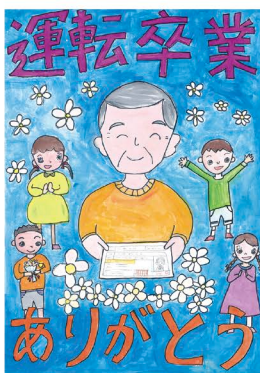
①広島県知事賞



②広島県警察本部長賞



③広島県警察本部長賞



④広島県教育委員会賞



⑤広島県教育委員会賞

「ほら、また『ながら運転』してるよ。」

対向車の運転手がけい帯電話で通話しながらすれ違う様子について、お父さんがあきれた表じようで話しました。

ぼくは、『ながら運転』って何だろうと思っていましたが、車の運転をしながら別の動作をするきけんな運転だと説明を受けて理かひできました。それから、意識きして運転手を見ていると、様々な『ながら運転』をかくにんすることができました。

スマートフォンやカーナビの画面を見ながら、けい帯電話で話をしながら、パンやおむすびを食べたり飲み物を飲んだりしながら、ヒゲをそりながら、お化しようをしながら、ゲームをしながら。また、周りの音が聴こえないくらい大きな音量で音楽を流しながら運転している人も見かけました。

本人たちは、時間を有こうに活用できているように思っているのでしょうか。器用にやつてのけているように思っているのでしょうか。それは、全くのかん違いだと思えたいです。

つい最近も、スマートフォンをかくにんしながら運転していた車に小学生がはねられたというニュースを見ました。さらに、スマホのゲームをしながら自転車運転していた人が、高い者とぶつかり、命をうばってしまったというしうげきの事もありました。自動車だけではなく、ぼくも遊びに行く時に使っている自転車も、人をきずつけてしまう凶器となることにショックを受けました。

はねられて大ケガを負った小学生も、かけがえの無い命を落とされた高いの方も、何も悪いことはしていないのに、想ぞうもしていないとつ然の出来事に二度切りの人生をうばわれてしまったのです。

運転手は、(まさか自分は交通事故を起こさないだろう。ほんの少しの時間なら大丈夫だろう。)と、軽い自分勝手な気持ちで運転してしまっただと思ひます。しかし、起きてしまったことは、もう元に戻りません。事この後にどんなにくやんで反省をしても、取り返しがつかないのです。

運転手が(ほんの少しの間なら)と、たった三秒間、目をはなしたとしたら、どれだ

けのキヨリを進んでしまうのか調べてみました。

例えば、自動車の時速六十キロで走っていると、約五十メートルものキヨリを動してしまふのです。五十メートルというくと、学校の体育のじゅ業で、ぼくが同じキヨリを進もうとすると、全力しつ走をしても九秒もの時間がかつてしまうのに、自動車だとあつという間に進んでしまひます。

『ながら運転』により、集中力が散まんなじようきようで前方を見ていないということは、目をとじて運転しているのと同じことだと思ひます。かりに、「目をとじたまま運転してみてください。」と伝えて、何のきようふも感じずに運転できる人は多くいるのでしょうか。

ひとたび事が起きてしまうと、ひ害者となつた相手はもちろんですが、その家族の人生も変えてしまひます。当たり前にあつたはずのその人や周りの家族の日じようや幸せをうばつてしまふ、未来をこわしてしまふのです。

ぼくは、五才のたん生日に、そ父から自転車とヘルメットを買つてもらひ、たくさん練習をして上手に乗られるようになりました。それと同時に、両親が自転車ほけんに加入してくれました。

「自動車でも自転車であつても、運転しているかぎり、『ぜつ対』はないんで。」
自転車で出かける時には、歩いて遊びに出かける時よりも一そう口をすっぱくして言われまふ。

ぼくの住む広島県でも、今年の四月から自転車のほけん加入がきむ化されました。自動車のように運転めんきよを取らなくても、だれもが気軽に乗られて便利な反面、気を付けなければならぬルールとせきにんがあるということをしつかり自覚していかなければなりません。

自分や自分の大切な人を守るために、ひ害者にも加害者にもならないために、一人一人が心のゆとりと思ひやりのあるやさしい気持ちを持ち『ながら、運転』できる社会になりますように。

